

生涯学習部

中央生涯学習センター

(2事業)

事務事業名	ページ
中央生涯学習センター管理運営事業	208

事務事業名	ページ
中央生涯学習センター活動事業	210

事務事業評価シート（平成23年度実施事業）

1 事務事業に関する基本情報

所属	教育委員会 生涯学習部 中央生涯学習センター 生涯学習係		
まちづくり大綱	第1節 個の力が発揮でき、人の力で発展していくまち		105
まちづくり目標	③ 自らの興味・関心に応じていつまでも学び、活躍できるまち		
施策	1-5 市民が主体となった学習活動の充実		
事務事業名	中央生涯学習センター管理運営事業		
予算科目	一般会計	10 款	5 項 1 目 32 細目
根拠法令	社会教育法、東広島市生涯学習センターの設置及び管理に関する条例		

2 コスト情報

		21年度（決算）		22年度（決算）		23年度（決算）		24年度（予算）	
コスト	事業費	事業費合計(A)	33,694 千円	31,880 千円	33,703 千円	33,012 千円			
		財源内訳							
		国県支出金	千円	千円	千円	千円			
		地方債	千円	千円	千円	千円			
		その他	8,249 千円	7,687 千円	7,765 千円	8,560 千円			
	一般財源	25,445 千円	24,193 千円	25,938 千円	24,452 千円				
	人件費	人件費合計(B)	- 人	- 人	5.05 人	- 人			
		人役内訳							
		正規職員	- 人	- 人	2.05 人	- 人			
		嘱託職員	- 人	- 人	3.00 人	- 人			
臨時職員		- 人	- 人	人	- 人				
総事業費(A)+(B)	33,694 千円	31,880 千円	50,526 千円	33,012 千円					
人件費/総事業費	- %	- %	33.30 %	- %					
事業費の 主な内訳 (平成23年度決算)	【委託料】舞台照明設備・舞台機構設備保守点検業務ほか14件							14,314,565 円	

3 事務事業の概要

目的 (何のために)	市民に生涯学習及び交流の場を提供し、並びに市民の生涯学習に関する活動を総合的に支援し、もって本市における生涯学習の振興を図る。	
対象 (誰・何を対象に)	センター利用者	
事業内容 (手段、手法など)	<p>1 施設の維持管理 施設の維持管理のために必要な各種業務委託や修繕整備を行う。</p> <p>2 施設の運営 中央生涯学習センターの施設及び附属設備を市民の使用に供する。</p>	
実施方法	方法	主な事業内容
	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施	
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	建物管理業務
	<input type="checkbox"/> 指定管理	
	<input type="checkbox"/> 補助金	
	<input type="checkbox"/> 貸付	

4 取組・実績

活動・結果	利用者が快適に使用できるよう建物管理等の業務委託や空調機器等の保守・点検などの15業務を実施するとともに施設を正常に機能させるため排水ポンプや非常用発電設備、会議室照明器具等各種修繕21件を行った。 大ホール162件、小ホール643件、会議室等5,140件の貸出しを行った。						
活動・結果 実績	【活動・結果指標名】	単位	21年度	22年度	23年度		
	利用者数	人	140,237	154,481	146,805		
	利用件数	件	5,581	5,788	5,945		
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	総事業費/利用者数	円/人	240	206	344		
成果目標 (指標設定理由や、 数値上では現れ にくい成果)	申請件数は増加傾向にあるが、利用者数に反映されていないため、申請1件あたりの人数を成果指標に設定する。						
成果実績 (目標達成状況等)	【成果指標名】	単位	21年度	22年度	23年度	24年度 (目標値)	25年度 (目標値)
	申請件数1件あたりの利用者数	人	25.1	26.7	24.7	26.0	27.0

5 事務事業の評価

視点	評価項目	項目の説明	評 価	
必要性	市の関与の妥当性	市が実施する理由、事務事業の目的、対象者の範囲等の妥当性はどうか	A	市が実施すべきである。
	市民ニーズの傾向	市民ニーズ(サービス需要)は増えているか	C	あまり変化はない。
有効性	類似事業の有無	他部局や国、県、民間企業等で同じような事務事業が存在するのか	B	一部、類似した事務事業が存在する。
	成果の達成度	想定した成果(目標)をあげることができたか	B	想定どおりの成果
効率性	コスト削減の余地	実施手段の適正化、電子化、人員の見直し等により、コスト削減の余地はないか	A	削減の余地はない。
	負担割合の適正度	コスト全体に占める自治体の負担(補助)割合は適正か	A	概ね適正な負担割合である。
	民間活力の活用	民間委託、指定管理者の導入等、より良い代替策は検討できないか	B	一部、民間活力を活用済
施策への貢献度	施策推進において影響度、重要度、貢献度が高い事業か		B	一定の影響度、貢献度がある。
優先度	施策の成果向上を重点的に図るため、優先的に推進していく必要があるか		B	現状どおりでよい。
評価区分	それぞれの観点により、どう評価したか		B	【順風】現状の計画どおり進めることが妥当
総合評価 コメント	中央生涯学習センターは、140余りの自主サークル等の生涯学習活動拠点であり、また各種事業を実施することにより市民の生活文化の振興及び社会福祉の増進に寄与することを目的とする施設である。老朽化が著しいものの、市民がいきいきと生活できる生涯学習の推進につながる施設として、利用者が快適に使用できるよう維持管理を行った結果、平成23年度には、5,945件の使用申請があった。市の生涯学習活動拠点としての役割を十分に果たしており、今後も継続して市が事業を進めていく必要がある。			
課題および 今後の方向性	施設の老朽化に伴い修繕が必要な箇所が増加する状況となっているため、空調機器等の各設備における故障防止のため、不具合の早期発見、修繕を行い、利用者にとって快適な施設の維持管理を図る。			

事務事業評価シート（平成23年度実施事業）

1 事務事業に関する基本情報

所属	教育委員会 生涯学習部 中央生涯学習センター 生涯学習係			
まちづくり大綱	第1節 個の力が発揮でき、人の力で発展していくまち			105
まちづくり目標	③ 自らの興味・関心に応じていつまでも学び、活躍できるまち			
施策	1-5 市民が主体となった学習活動の充実			
事務事業名	中央生涯学習センター活動事業			
予算科目	一般会計	10 款	5 項	1 目 36 細目
根拠法令	社会教育法			

2 コスト情報

		21年度（決算）		22年度（決算）		23年度（決算）		24年度（予算）		
コスト	事業費	事業費合計(A)	2,520 千円		2,380 千円		2,282 千円		2,416 千円	
		財源内訳	千円		千円		千円		千円	
		国県支出金	千円		千円		千円		千円	
		地方債	千円		千円		千円		千円	
		その他	34 千円		38 千円		千円		千円	
	一般財源	2,486 千円		2,342 千円		2,282 千円		2,416 千円		
	人件費	人件費合計(B)	- 人	- 千円	- 人	- 千円	1.65 人	11,979 千円	- 人	- 千円
		人役内訳	- 人	- 千円	- 人	- 千円	1.65 人	11,979 千円	- 人	- 千円
		正規職員	- 人	- 千円	- 人	- 千円	人		- 人	- 千円
		嘱託職員	- 人	- 千円	- 人	- 千円	人		- 人	- 千円
臨時職員		- 人	- 千円	- 人	- 千円	人		- 人	- 千円	
総事業費(A)+(B)	2,520 千円		2,380 千円		14,261 千円		2,416 千円			
人件費/総事業費	%		%		84.00 %		%			
事業費の主な内訳 (平成23年度決算)	【報償費】中央生涯学習センター講師謝礼								2,030,000 円	

3 事務事業の概要

目的 (何のために)	学習活動の支援や学習機会の提供を行い、生涯学習のまちづくりの推進を図るとともに市民の健康、仲間づくりの促進を行う。また、学校週5日制に対応した、親子、家族のふれあいができる体験の機会提供を行う。
対象 (誰・何を対象に)	市内に居住、もしくは通勤、通学している者
事業内容 (手段、手法など)	<p>1 主催講座等の開催及び運営 各年齢層(老若男女)を対象に、地域のニーズや地域課題、現代的課題に即した多種多様な学習機会の提供を行う。 (1) 中央生涯学習センター講座(前期・後期) (2) 親子ふれあい教室等(親子ふれあい教室・親子ふれあいコンサート・親子ふれあい演劇等) (3) ロビーふれあいコンサート (4) サークル活動発表会</p> <p>2 自主サークル団体等の育成・支援 (1) 主催講座から自主サークル移行のためのサークル結成の呼びかけや活動支援。 (2) 自主サークルの紹介(掲示・窓口)。</p>
実施方法	方法
	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施
	<input type="checkbox"/> 業務委託
	<input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 貸付
	主な事業内容

4 取組・実績

活動・結果	<p>集い、学ぶ、結ぶ、生涯学習の拠点として、中央生涯学習センター各種主催講座等を開催し、市全域から多数の受講者を得ることができた。更には、主催講座から自主サークルの育成を行い、生涯学習の推進を図った。</p> <p>平成23年度中央生涯学習センター主催講座等実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央生涯学習センター講座(前期・後期) 26講座 132回 1,953人 親子ふれあい教室 10講座 12回 302人 コンサート・演劇等 16回 2,490人 <p>自主サークルの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> 掲示(常時)、窓口(随時) 					
活動・結果実績	【活動・結果指標名】	単位	21年度	22年度	23年度	
	講座開催回数(年間)	回	146	151	160	
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	総事業費/講座参加者数	円/人	505	645	3,005	
成果目標 (指標設定理由や、数値上では現れにくい成果)	各種主催講座、イベント等への参加者を増大させるため、センターが主催する講座参加者を成果指標に設定している。					
成果実績 (目標達成状況等)	【成果指標名】	単位	21年度	22年度	23年度	24年度 (目標値)
	主催講座等参加者数	人	4,988	3,689	4,745	5,500
						5,500

5 事務事業の評価

視点	評価項目	項目の説明	評価
必要性	市の関与の妥当性	市が実施する理由、事務事業の目的、対象者の範囲等の妥当性はどうか	A 市が実施すべきである。
	市民ニーズの傾向	市民ニーズ(サービス需要)は増えているか	B 増加傾向にある。
有効性	類似事業の有無	他部局や国、県、民間企業等で同じような事務事業が存在するかの	C 類似した事務事業が存在する。
	成果の達成度	想定した成果(目標)をあげることができたか	B 想定どおりの成果
効率性	コスト削減の余地	実施手段の適正化、電子化、人員の見直し等により、コスト削減の余地はないか	A 削減の余地はない。
	負担割合の適正度	コスト全体に占める自治体の負担(補助)割合は適正か	A 概ね適正な負担割合である。
	民間活力の活用	民間委託、指定管理者の導入等、より良い代替策は検討できないか	A 全て市直営が望ましい。
施策への貢献度	施策推進において影響度、重要度、貢献度が高い事業か		B 一定の影響度、貢献度がある。
優先度	施策の成果向上を重点的に図るため、優先的に推進していく必要があるか		B 現状どおりでよい。
評価区分	それぞれの観点により、どう評価したか		B 【順風】現状の計画どおり進めることが妥当
総合評価コメント	<p>中央生涯学習センターは、生涯学習推進の中核的施設であり、今後も継続して、市民のニーズや現状課題に対応した講座・事業を実施し、人づくりやまちづくりにつなげ、市民が、豊かな人生を送ることができるよう学習機会を提供するためには、市が事業を実施する必要がある。</p> <p>また、類似する事務事業はあるが、老若男女に広く対応し、生活課題・地域課題に即した講座を開催し、自ら考え、自らの地域をつくっていく市民を育むという目的が他と異なる。</p> <p>なお、本事業は、職員が講座の補助員を務めるなど主体的な取組みにより限られた予算、人員で実施しており、160回の講座を開催できたことは評価できるものであり、今後も継続して実施すべき事業である。</p>		
課題および今後の方向性	生涯学習を効果的に推進していくため、より市民の学習ニーズや現状課題に対応した講座等を展開していく必要がある。講座参加者数増大に向けて、広報の強化やより魅力ある講座、イベントの企画など、取組みを進めていく。		